

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「北アルプス・安曇野ワインバレー特区」における醸造・鳥獣害対策・ワイン普及に関する調査、研究事業
事業主体 (連絡先)	北アルプスワインぶどう研究会
事業区分	⑥イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,137,236 円 (うち支援金 : 860,000 円)

事業内容

- ・ワイナリーの先進地として山梨県のワイナリーを訪問し、ワイナリー経営方法等を学んだ。
- ・ワイン用ぶどう栽培を行っている圃場3カ所に鳥獣害対策の機器を設置し、効果を実証した。
- ・試飲会等のイベントにおいてアンケートを実施し、消費者の声を集めた。



【ワイナリー視察】

事業効果

- ・山梨県甲州市勝沼には大手メーカーから小さなガレージワイナリー、新旧のものまで33軒のワイナリーが存在し、同業者・競争相手の多い中で、それぞれが工夫と努力で立派な経営をしており、ワイナリー経営を目指す我々から見ても経営方法等、非常に参考になった。
- ・鳥獣害対策として設置した機器により、ワイン用ぶどう栽培に効果的な方策を研究したところ、収量が300kgまで落ち込んだ平成29年に比べ、被害がほとんどなく予定の2トンの収量を得られた。
- ・試飲やアンケートによって消費者の感想や率直な生の声を集めることができ、今後活かせる。



【鳥獣害対策実証】



【試飲会・アンケート実施】

【目標・ねらい】

- ①ワイナリー経営方法
- ②鳥獣からぶどうを守る対策
- ③消費者の声を参考にしたワインの品質向上

- 研究会のメンバーそれぞれが目標とするワイナリー経営に今回の視察で得られた知見を結び付けていく。
- 効果的な鳥獣害対策を講じることにより、ワイン用ぶどうの減収を防いでいく。
- 今回のアンケートで得られた意見を参考として、良質で多くの人に愛され親しまれるワインづくりにつなげるとともに、今後も常に消費者の声に耳を傾けていく。

※自己評価 **【B】**

【理由】

具現化できそうなワイナリー経営に関するアイデアを吸収できた。
鳥獣害対策の中でもガトリオンによる実験では特にムクドリに対する効果が実証できた。

幅広い年齢層から、試飲をしていただき、率直な感想もいただき、ワインづくりを進める上で、大いに参考になる意見を集めることができた。